

西穂高岳 奥穂高岳縦走

2011年9月14日～16日

八田 義一

長い海外勤務を終えて帰国しリタイアした鶴谷と数十年振りに北アルプスへ行くことになった。行き先は念願の西穂高から槍ヶ岳への縦走である。途中で僕の靴が不具合になったため槍ヶ岳までは行けなかったが西穂 奥穂の縦走はこれだけで十二分に山登りを堪能させてくれるハードな、かつ充実した山行だった。



西穂から振返る。独標、奥に焼岳、遠くに乗鞍岳



西穂頂上。背景、せっかくの笠ヶ岳の山頂が隠れている。

9月14日(水)

午後2時20分、新穂高温泉のバス停に着き、待っていた相棒の鶴谷と落ち合う。すぐにロープウェー乗場へ行き、2時30分のロープウェーに乗り終点の西穂高口へ。登山届を提出して今日の宿泊地である西穂山荘へ向かう。二人とも汗びしょりになって1時間余りで夕方4時20分山荘に着いた。9月半ばの平日だが登山客はそこそこ来ている。夕食後、暗くなった外に出てみると、二日前の中秋の名月の名残を留めた十七夜の月が煌々と照っていた。明日はいい天気だろう。

9月15日(木)



西穂高岳を振返る。結構尖ってる。
急な降りだ。

午前3時に起床。3時55分、ラテ(ヘッドランプ)を点けて出発。奥穂高までの長い一日が始まった。夜の明けやらぬ中、ラテを点けて北アルプスの山を歩くのは久しぶりのことだ。暗い中、ラテの灯りを頼りにせつせと登り5時10分過ぎに独標2,701mに着いた。ここまで2ピッチ1時間15分。まずまずのペース。

ようやく薄明るくなり眼下に上高地、目を転じて上を見るとこれから行くピラミッドピーク、西穂高、間ノ岳のとんがったピークから遠くジャンダルム、奥穂までの稜線が見える。ここでラテをザックにしまい、5時半出発。ここからは縦走路としては最難関と言われるコースが始まる。二人して“気を引締めて行こうぜ”。けっこう痩せた岩稜となってきた。30分足らずでP8と表示されたピラミッドピークに着く。次第に険しくなってきたピークをいくつか上り下りして6時50分過ぎ西穂高2,909mの頂上に着いた。僕は大学3年の6月に新人合宿で1年生をつれてここまで来た事がある。それ以来だ。

小屋からここまで3時間足らずだ。いいペース。行く手天高くジャンダルムから奥穂高が聳え立ち、右手には吊尾根から前穂高、明神岳、左手には槍へ続く山並と遠くに槍ヶ岳の尖ったピークが見える。360度の展望だ。空は一点の雲も無い快晴の碧空だ。奥穂との標高差は280m余りだが、どっこいここからは険しいピークの上り降りが続いていくのだ。

7時10分出発。いきなり急な岩場をドーンと下って登り返す。振返ると西穂は結構尖がったピークだ。幾つかのピークを上り下りすると大岩に「間ノ岳2900(正しくは2907m)」と書かれた間ノ岳の頂上に着いた。8時35分だ。小休止する。



間ノ岳頂上の鶴谷親分。まだ余裕ありだ。

ここからは急な岩場を下ることになる。途中で振返るとものすごい所を降っているのがわかりびっくり。カメラを出してその斜面を一枚撮る。岳沢側の岩場に付けられた鎖を見つけ、鎖2本分を慎重に下る。落ちこちたらおしまいだ。降りきった所から回り込むように少し登ると間天のコルに着いた。9時20分。ここで昼食をとる。9時40分出発、天狗の頭を目指す。ここからはよく知られた逆層スラブの登りだ。いつかテレビで見たマッターホルン上部のフィックスロープ設置の所を登るガイドの登り方にならい鎖に頼って斜面の岩を駆け上るように登るとあっけなくここを登りきれた。下を見ると鶴谷が慎重に登ってくる。頂上で小休止して写真を撮る。頂上は2909m。間ノ岳と天狗の頭との標高差はわずかに2m。この2mを稼ぐためには60メートル余り降り、同じ程に登らねばならない。頂上から振返ると間ノ岳の下りがすごい。いったいどこを降って来たのかと思う。

天狗の頭を過ぎた所で右足が変な感じだなあと思ったらアレアレ！右靴のビブラムの踵部分が剥れてしまいブラブラしている。このままでは危ないのでナイフで剥れた踵部分を切取る。踵から前の部分も今にも剥れそうだ。細引きで靴底ごと縛り応急措置をとる。こんな所でちょっと困ったことになったがなんとか登りきらねばならない。



間ノ岳のすごい降り。どこをどう降ったのやら降るのに必死で覚えてない。



天狗の頭から間ノ岳を振返る。間ノ岳の降りの凄まじいこと。間ノ岳の右の尖がったピークは西穂高岳。

眼前には天狗のコルからの急斜面が立ちはだかり、その上から畳岩の頭、コブ尾根の頭、ジャンダルムへと続く岩尾根が続いている。目の前の急斜面は“いったいどこを登るんや”と言いたくなるような絶壁だ。まずは天狗のコルへ降らねばならない。切り立った断崖を慎重に降り、最後は垂直に近いような下りを鎖、ボルトを頼りに降り、やっとのことでコルに降り立った。



天狗の頭への逆層スラブの登り。スカイライン近くを登る登山者あり。



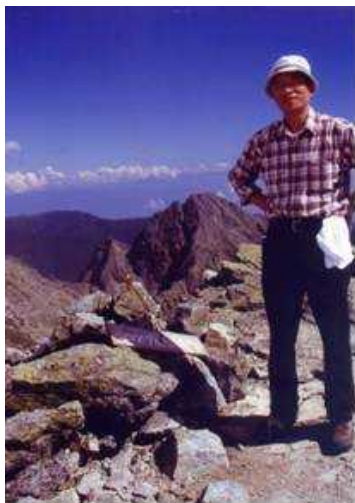
やれやれここまで来た。天狗岳（天狗の頭）頂上。



天狗の頭から大岩壁とジャンダルムを望む。300mのキツイ登り。どこを登るの？



ジャンダルム。マッコウクジラの頭みたい。どこを登るのかなあ。



ここからは岳沢へ降るエスケープルートがある。岳沢側を見ると上高地からもよく見える逆層の畳岩尾根の岩壁が日を浴びてキラキラ光っている。コルからコブ尾根の頭へはこのルート最長 300mの



ジャンダルムのとっぺんだー！

急峻な登りだ。急なルンゼに沿って付けられたルートを細かくジグザグを切りながら登る。疲れてきた体にはこたえるすごい斜面。懸命に登っているといつしか登りきり、続いて現れる岩稜を辿って行くと目の前にジャンダルムが現れた、遂にジャンダルムまで来た。曇岩の頭やコブ尾根の頭はそれとは気付かぬ内に通過していた。こちら側から見るジャンダルムは奥穂側から見るようなカッコいい形ではなく、なんだかマッコウクジラの頭みたいだ。ジャンダルム基部の黄丸印の所から左ヘトラバースし、その後右斜め上へルートを取り、更に直登するとジャンダルムの頂上に着いた。時に午後1時10分。西穂の小屋から9時間15分だ。

写真を撮って降る。降りには岩壁の途中からバンドを右ヘトラバースしたがちょっと怖いルートだった。続いて口バの耳を夢中で上り下りし、最後の難関馬の背の前に立った。先行者が一人馬の背に登っている。どこまで行くのかと見ていたら尖がったピークのとっぺんまで登ったので、“へえーあそこまで登るんかー”。ピークの向うへ消えたのを見届けて僕も登りだした。細いリッジの両側はスッパと切れ落ちてすごい高度感だ。しかし、ホールド、スタンスはしっかりしているので快適に登れる。久し振りにスッキリした岩登りをしている感じた。ピークの先端まで登ると奥へ岩稜が続いており、その先に奥穂高の頂上が見える。



最後の難関馬の背に登る先行者。ピークの上まで登り、奥へ続く岩稜を辿る。細いリッジの両側はスッパと切れ落ちている



やれやれ奥穂高岳頂上 3190mに着きました。

9月15日 15:30

午後3時半、ついに奥穂高頂上に着いた。西穂山荘から11時間半でこの難関ルートを登りきった。少し遅れて着いた鶴谷はさすがに疲労の色が隠せない。二人でガッチリと握手。この縦走は60代後半の二人には肉体的にも精神的にもすごくタフなルートだったが、それだけに達成感は充分だった。あたりを覆い始めたガスで登って来たジャンダルムは残念ながら見えない。30分ほど頂上において穂高岳山荘へ降った。山荘に着いてビールとワインで難ルートの完登を祝ってカンパイ！



美しき夜明け。穂高岳山荘から。

9月16日(金)

僕の靴が不具合になったため槍ヶ岳までの縦走は中止し、白出沢から新穂高温泉へ降る。白出沢は大きな岩屑が沢いっぱい埋まり迷路のようなルートだ。ひたすら降るが、こういう降りはけっこう疲れる。途中でテントを担いで穂高を縦走してきたという70歳のおっちゃんに出会う。さすがにしんどそうだ。やっと岩屑のガラ場を降りきり、荷継沢の分岐から断崖に付けられた巻き道をたどり、白出大滝の下に降り立った。大滝は何年か前の地震で巨岩にすっかり埋め尽されていた。あとは樹林帯を降り、白出沢出合からもうひと頑張りして午後4時前新穂高温泉に着いた。ハードな山行だった。



ジャンダルム、ロバの耳、馬の背、奥穂頂上へと続く岩稜。左下に穂高岳山荘。涸沢岳から写す。